

薬の伝言板 ～抗菌薬について～



No.250 2018年9月
丸子中央病院 薬局

抗菌薬ってご存知ですか？普段は、なかなか聞き慣れない言葉かもしれませんがね。抗菌薬とは細菌を壊したり、増えたりするのを抑えたりする薬のことを指します。その中でも微生物が作った化学物質を抗生物質、抗生剤ということもありますが、今回の薬の伝言版ではすべてまとめて抗菌薬と呼びたいと思います。

抗菌薬は細菌による感染症を治療してくれる大切な薬で、過去にたくさんの抗菌薬が開発されてきました。しかし、抗菌薬が安易に使われることで細菌が耐性化し、その耐性菌によって苦しむ患者さんの数も増えてしまいました。残念ながら、新しく開発される抗菌薬の数は年々減っています。そこで、耐性菌を減らすために、今ある抗菌薬を大切に、正しく使うことが必要とされているのです。

過去の新聞記事でも耐性菌の話題を見かけませんか？

現在、この耐性菌によって世界で年間70万人が死亡しているのです。



この細菌の「耐性化」を起こさないために、私たちには何ができるのでしょうか？

薬については、こんなポイントを押さえておきましょう。

1. ウイルスを原因とする『風邪』に抗菌薬は効きません！

一般的に、『風邪』とはウイルスが原因でいろいろな症状を起こします。

抗菌薬は、文字通り細菌と戦う薬です。細菌とウイルスは全く別の病原体ですから、抗菌薬はウイルスには効きません。ウイルスによって起こる風邪には、抗菌薬を飲んで意味がないのです。





2. 処方された抗菌薬は医師の指示通り服用しましょう！

これまで抗菌薬をもらった時、指示された通りに最後まで飲みましたか？実はこれはとても大切なことです。そしてその飲み方も様々です。1日1回飲む薬もあれば、1日4回飲む薬もあります。1日4回飲む薬を1日1回だけ飲んでも効果がありません。中途半端な治療となるだけでなく、細菌が抗菌薬の効きにくい形へ変化してしまい、今後の治療がしにくくなることもあるのです。

3. 自己判断でやめない！また抗菌薬を残しておいて、後から飲むこともやめましょう！

症状がよくなったからといって途中でやめしまうと、落ち着いていた症状が出てきてしまう可能性もあります。抗菌薬を必要とする期間は原因、病気によって大きく異なり、月単位、年単位で抗菌薬を飲む必要がある場合もあるのです。また残った薬を取っておいて後から飲むのは、病気に合わなければ効かないだけでなく、思わぬ副作用が出てしまう可能性もありますので、絶対にしないで下さい。

4. もし、副作用が出たら…？

もちろん、抗菌薬は他の薬と同様に副作用が出る場合があります。特に多いのは下痢です。これは病原体だけでなく、腸内の環境を保っている細菌も抗菌薬が攻撃してしまうためです。

もし副作用で飲み続けることをためらうことがあれば、無理せず医師や薬剤師に相談することをお勧めします。



このように、抗菌薬はどこにおきた感染症なのか、どの菌によるものかなどから最適な抗菌薬を判断して処方されます。それぞれ薬によって服用方法が異なりますので、医師や薬剤師の説明をきちんと聞き、正しく服用しましょう。

処方された飲み方を守ることは、あなたの病気を確実に治すため、抗菌薬による副作用を減らすため、とても重要なのです。

